様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月　 ８ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０２９５

研究課題名（和文）冷戦期アメリカ文学のヨーロッパ表象

研究課題名（英文）The Representation of Europe in American Literature in the Cold War Era

研究代表者
高野　泰志（Takano, Yasushi）

九州大学・人文科学研究科（研究院）・准教授

研究者番号：５０３４７１９２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題はアメリカ文学に対するヨーロッパの影響を調査したものである。アメリカ文学は研究の最初期からヨーロッパ文学との対比の中で読まれてきたが、作家もまたヨーロッパを常に意識しながら作品を書いてきた。本研究の調査によって、多くのアメリカ人作家がヨーロッパの宗教観、政治、歴史的経緯にいかに大きく影響されてきたかが明らかになった。研究成果は8回の研究発表（うち2回は海外で開催された国際学会）、雑誌論文4件、共著書5冊（うち編著1冊）、単著1冊という形で公表した。

研究成果の概要（英文）：This study investigated European influence on American literature. American literature has been read as contrasted with European literature since the earliest stages of the study, and the American authors has been writing works bearing in mind differences between Europe and their own country. This study clarified how deeply many American writers have been influenced by religious sects in Europe, political theories about transatlantic matters, and the historical process in which America divided itself from Europe. The result has been published in eight academic conferences (including two international conferences), four journal articles, five joint books, and one book.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：アメリカ文学　ヨーロッパ　カトリシズム　歴史　政治

１．研究開始当初の背景

コロンブスによるアメリカ大陸の「発見」以来、ヨーロッパ諸国の植民地建設、アメリカ独立戦争、移民の流入など、これまでアメリカはヨーロッパとの関わりの中で存在してきた国であり、欧米を比較した研究は非常に多い。中でも文学研究においてはマルカム・ブラッドベリの *Dangerous Pilgrimages: Trans-Atlantic Mythologies and the Novel* (1995)が非常に大きな業績であると言える。シャトーブリアンから現代作家に至るまで、アメリカとイギリスの文学的影響関係を詳細に論じたこの著作は、英米文学研究者必読の書と言えるだろう。

しかしながら、ブラッドベリを待つまでもなく、そもそもアメリカ文学最初の研究はイギリス人Ｄ・Ｈ・ロレンスによる *Studies in Classic American Literature* (1923)であり、また学問的に最初のアメリカ文学研究の礎を築いたＦ・Ｏ・マシーセンの *American Renaissance* (1941)はイギリス詩論をもとにしてアメリカ文学作品を研究した著作である。そういう意味では当初からアメリカ文学研究はトランスアトランティックな視点で始まったと言えるだろう。

マシーセンのこの記念碑的著作は、そもそも当時の敵国であったドイツに文化的対抗手段であったという点はよく知られているが、我々が忘れてはならないのは、この事実上最初の学術的アメリカ文学研究書が政治的意図で書かれたという事実である。またマシーセンはホモセクシャルであり、共産主義者でもあった人物であるが、このアメリカ文学研究における巨人が、「反アメリカ的」側面を糾弾されることによって自殺をしているということは、いったいいかなる意味を帯びていると言えるのか。

周知のように、近年ではマシーセンを始めとする草創期のアメリカ文学研究が帯びていた政治性に関する研究は非常に多い。例えばほんの一例を挙げるならばウォルター・ベン・マイケルズとドナルド・Ｅ・ピーズ編の *The American Renaissance Reconsidered* (1985)やラッセル・ライジングの *The Unusable Past* (1986)、またサクヴァン・バーコヴィッチやジョナサン・アラックなどニューアメリカニストと呼ばれる研究者たちの業績など、枚挙にいとまがない。しかしトランスアトランティックな視点から冷戦を捉えた研究は意外なほど少ないのである。

日本においても同様にアメリカン・ルネッサンスを見直す傾向は見られ、増永俊一編著『アメリカン・ルネサンスの現在形』（2007）は非常に重要な成果であると言える。また冷戦期に書かれたアメリカ文学に関する研究書としては、山下昇編著『冷戦とアメリカ文学―21 世紀からの再検証』（2001）が重要である。また 2009 年には日本アメリカ文学会で冷戦に関するシンポジウムが開かれている。

本研究は上で見たような 2 つの批評の流れ、すなわちトランスアトランティックな視点から考察されたアメリカとヨーロッパの関係性に関する議論と、冷戦がアメリカ文学およびアメリカ文学研究に与えた影響に関する議論を統合する試みである。

２．研究の目的

本研究が扱う作家はナサニエル・ホーソーン、エドガー・アラン・ポー、アーネスト・ヘミングウェイ、Ｆ・スコット・フィッツジェラルド、トルーマン・カポーティなどヨーロッパと深く関わったアメリカ人作家たちである。これらの作家は、これまで政治的な考察をほとんどされてこなかった作家たちであり、それ故に研究する意義が高いと考えられる。

これらの作家のヨーロッパとの関係を、（１）歴史的、（２）政治的、（３）宗教的な観点から考察する。アメリカとヨーロッパの関係は地理的な距離感だけでなく、歴史的な隔たりがきわめて重要な意味を持つ。文明の堕落を逃れて無垢の土地へ向かうというピューリタンの企てから植民が始まったという出発点から明らかなように、歴史のある旧世界と歴史のない新世界という対比が念頭に置かれ、その両者に堕落／無垢、洗練／粗野という両面価値が与えられていた。それが独立以後の孤立主義、干渉主義、そして帝国主義的拡張政策へと移り変わる合衆国の政治にも強い影響を与えていたのである。またカトリックや英国国教会から分離する形でピューリタンによって作られた国でありながら、その後の合衆国は移民の流入などの影響により、多様な宗派が入り乱れる国となった。

本研究はこれらの大西洋を挟んだアメリカとヨーロッパの関係が、アメリカ人作家の創作にどのような影響を及ぼしたのかを研究し、その一端を明らかにすることを試みている。

３．研究の方法

（1）国際学会への参加

2012 年 6 月および 2014 年 6 月に国際ヘミングウェイ学会に参加し、発表を行った。2012 年はミシガン州で開催され、主にヘミングウェイに対するカトリシズムの影響に関して研究結果を報告し、参加したアメリカ人研究者と積極的な議論を交わした。2014 年はイタリアのヴェニスで開催され、ここではヘミングウェイの最晩年の作品に関し、第二次世界大戦後のヨーロッパの軍事的、政治的状況がヘミングウェイの作品にどのような影響を及ぼしたかについて発表を行った。この際にもアメリカ人研究者から非常に多くの有益なアドバイスを受けることができた。

またこの両学会では、本研究の研究課題と近い分野の発表が非常に多く、さまざまな研究発表を聴講できたことは本研究課題を推

進するのに非常に有益であった。
（2）パリにおける現地調査
2014年3月にパリでヘミングウェイの足跡を追い、フランスにおける伝記資料を収集した。ここでの研究成果は主に当時の政治状況がヘミングウェイの宗教観にどのような影響を与えたのかを知るためのものであり、最終的に単著『アーネスト・ヘミングウェイ、神との対話』をまとめるのに不可欠な情報を得ることができた。
（3）国内学会での発表
2012年5月の九州アメリカ文学会第58回大会では、「ヘミングウェイと老い」と題されたシンポジウムにパネリストとして参加した。ここでのシンポジウムは編著『ヘミングウェイと老い』という形で公表する研究成果の原型となった。
また、2013年10月には九州英文学会第66回大会において、招待発表を行い、エドガー・アラン・ポーと都市化の関係をヨーロッパとアメリカの関係を重ねて論じた。同年12月にはその発表と関連づけて、日本ナサニエル・ホーソーン協会九州支部例会において、ナサニエル・ホーソーンの代表作『緋文字』を都市とヨーロッパに関連づけて論じた。
2014年には九州英文学会第67回大会において「アメリカ文学と結婚」と題されたシンポジウムのコーディネーターをし、ヘミングウェイの『武器よさらば』に見られる結婚と宗教観をヨーロッパ的文脈から考察した。また同年12月には日本アメリカ文学会関西支部第58回大会において「第一次世界大戦とアメリカ文学---戦争、作品、作家の力学」と題するシンポジウムに参加し、『武器よさらば』の宗教観を第一次世界大戦とそれをめぐる政治的状況との関わりから考察した。
2015年に入り、本研究課題を締めくくる発表として日本F・スコット・フィッツジェラルド協会においてヘミングウェイと同時代の作家であり、関連づけて研究する必要のあるフィッツジェラルドを、『夜はやさし』を中心として論じた。この発表ではヨーロッパにおける経済的状況を視野に入れて作品の読解を行った。
またこれらの学会を含め、発表をしない学会においても適宜国内のヘミングウェイ研究者と交流し、当研究内容について意見交換を行った。
（4）『ヘミングウェイと老い』編集
九州アメリカ文学会でのシンポジウムをもとにした論文集を編集し、その中に論文と対談企画を収録した。本研究は単独による研究ではあるが、シンポジウムと論文集という形で多くの研究者と連携することができ、研究の幅が大きく広がったと言える。

４．研究成果
（1）論文の掲載
本研究課題の中からカポーティに関する研究を共著『冷戦とアメリカ---覇権国家の文化装置』に論文として収録することができた。
またエドガー・アラン・ポーに関する研究は日本英文学会支部統合号に慫慂論文として掲載した。同じテーマでナサニエル・ホーソーンに関して行った研究は日本アメリカ文学会の全国誌『アメリカ文学研究』に掲載された。
ほかにも共著『あめりか　いきものがたり---動物表象を読み解く』にヘミングウェイの動物表象に関する論文を、共著『環大西洋の想像力---越境するアメリカン・ルネサンス文学』にポーと食文化に関する論文を収録した。これらの論文はいずれも本研究課題の主要な研究成果の一環であり、読者層の広い媒体に掲載されたことで、研究成果を幅広い読者に知らせることができたと考えられる。
その他前項「研究の方法」(4)で挙げた『ヘミングウェイと老い』にも研究成果の一部を発表している。またヘミングウェイに関しても数本の論文を書いているが、以下に記す単著に収録したのでここでは割愛する。
（2）『アーネスト・ヘミングウェイ、神との対話』出版
本研究課題の中から中心的に論じてきたヘミングウェイに関するものをまとめ、宗教、政治、戦争などヨーロッパ的コンテクストから論じた単著として出版した。本研究課題の主要成果を単著という形で発行することができ、当初の研究計画で予定していた以上に大きく公表することができた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）
①<u>高野泰志</u>「さらし台と個室の狭間で―ナサニエル・ホーソーンのメタフィクションの試み」『アメリカ文学研究』第51号　日本アメリカ文学会（2015年）5-21頁、査読有
②<u>高野泰志</u>「都市の欲望---ポーの推理小説に見られるのぞき見の視線」『九州英文学研究』第31号　九州英文学会（2015年）73-80頁、査読有
③<u>高野泰志</u>「信仰途上のジェイク---『日はまた昇る』における2つの時間のゆがみ」『ヘミングウェイ研究』第 15 号　日本ヘミングウェイ協会（2014年）7-20頁、査読有
④<u>高野泰志</u>「届かない祈り---20 年代のヘミングウェイ作品に見られる宗教モチーフ」『文學研究』第110号　九州大学大学院人文科学研究院（2013年）29-43頁、査読無
http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/handle/2324/26225/pa029.pdf

〔学会発表〕（計8件）
①<u>高野泰志</u>「覆い隠された現実---『夜はやさし』における欲望する主体の崩壊」日本フィッツジェラルド協会関西研究会ワーク・イ

ン・プログレス（2015 年 3 月 6 日）京都大学（京都府京都市）
②高野泰志「ヘミングウェイと戦争---10 年後に戦争を語ること」第 58 回日本アメリカ文学会関西支部大会フォーラム「第一次世界大戦とアメリカ文学---戦争、作品、作家の力学」（2014 年 12 月 6 日）関西学院大学（兵庫県西宮市）
③高野泰志「異端審問と生物学的罠---ヘミングウェイの結婚観」九州英文学会第 67 回大会シンポジウム「アメリカ文学と結婚」（2014 年 10 月 25 日）福岡女子大学（福岡県福岡市）
④ Yasushi Takano, "Creation and Rape: Sexual Exploitation of a Girl in a Defeated Nation in *Across the River and into the Trees.*" The 16th Biennial International Hemingway Society Conference in Venice (2014.6.25) Venezia, Italia
⑤高野泰志「『緋文字』と小説の勃興」日本ナサニエル・ホーソーン協会九州支部例会（2013 年 12 月 1 日）福岡大学（福岡県福岡市）
⑥高野泰志「密室に注がれた視線---19 世紀アメリカ文学の都市とポーの推理小説」日本英文学会九州支部第 66 回大会　招待発表（2013 年 10 月 27 日）鹿児島国際大学（鹿児島県鹿児島市）
⑦Yasushi Takano, "Nick Adams' Escape from Original Sin: 'The Last Good Country' and the Nightmare of Eden." The 15th Biennial International Hemingway Society Conference in Michigan (2012. 6. 20) Michigan, USA
⑧高野泰志「ヘミングウェイ作品の老いと性」九州アメリカ文学会第 58 回大会シンポジウム「ヘミングウェイと老い」（2012 年 5 月 12 日）熊本大学（熊本県熊本市）

〔図書〕（計 6 件）
①高野泰志『アーネスト・ヘミングウェイ、神との対話』松籟社（2015 年)262 頁
②村上東編、高野泰志ほか著『冷戦とアメリカ---覇権国家の文化装置』臨川書店（2014 年）221-47 頁
③高野泰志編著『ヘミングウェイと老い』松籟社（2013 年）335 頁
④辻本庸子・福岡和子編、高野泰志ほか著『あめりか　いきものがたり---動物表象を読み解く』臨川書店（2013 年）163-84 頁
⑤竹内勝徳・高橋勤編、高野泰志ほか著『環大西洋の想像力---越境するアメリカン・ルネサンス文学』彩流社（2013 年）69-86 頁
⑥片岡啓・清水和裕・飯嶋秀治編、高野泰志ほか著『生と死の探求』九州大学出版会（2013 年）151-68 頁

６．研究組織
(1)研究代表者
　高野　泰志（TAKANO YASUSHI）
九州大学大学院・人文科学研究院・准教授
研究者番号：50347192